

新年のごあいさつ



明けましておめでとうござります。

皆様におかれましては、ご家族おそろいで輝かしい新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は、町民の皆様が何を悩み、何を考えているのか、そこから可能性や課題をみつけ町政につなげる「対話によるまちづくり」を訴え、町制施行90周年を迎えるこの大崎町の町政を担当させていただきました。改めて責任の重さを感じ、身が引き締まる思いであります。また、同時に「まちづくりは総力戦」という思いを持ち続け、まちの未来のために町民の皆様と力を合わせて全力で進んでまいりたいと思っております。

国内においては、依然として少子高齢化が急速に進む中、都市圏への人口流出によって地方はさらに若者不足・人口減少が加速しています。

一方で、昨年は日本憲政史上初の女性総理が誕生し高市早苗内閣がスタートしました。女性活躍を象徴するこの出来事は国内外からも高い支持と期待を受けこれから日本をけん引する新しいリーダーとして期待されています。

このような状況のなか、大崎町長として私は次のようなことに積極的に取り組んでもいいたいと思っています。

本をけん引する新しいリーダーとして期待されています。

◎『いくつになつても安心して暮らせるまちへ』町内機関との連携を基本に医療・福祉の体制の充実を図るとともに移動に困っている方の交通手段を整え、地域の利便性向上を図り、災害時も安心できる地域の見守り体制の充実をめざします。

◎『子育てしやすい、住みよいまちへ』中学生の制服の無償化など子育てにかかる経費の支援と学校給食での地元食材の利用率を高め地産地消による食育を進めます。また、確かな学力の定着、特性のある子どもの学びの場の充実を図るとともに、空き家改修などで子育て世代の定住を支援、雨の日も遊べる場所を整えます。

◎『農畜産業と環境を守るま

ちへ』新規就農支援、有害鳥獣対策、農地整備を進めながら、耕作放棄地を減らし、美しい景観を守るとともに環境にやさしい農業を推進します。資源リサイクルに関しても利便性の向上を図りながら、大崎町の特徴を活かして交流と観光につながる取り組みを推進していきます。

この他にも、大崎町が今後取り組んでいかなければならぬ課題はたくさんあります。本格的な人口減少時代を迎、基幹産業である農林水産業の担い手不足、耕作放棄地や荒廃森林の増加、地域医療の確保、地域公共交通の在り方、情報通信格差、集落機能の維持など、多くの課題を抱えております。そういった中にあっても身近な自治体としてそれぞれの課題を本質的に捉え、「対話によるまちづくり」の理念を浸透させていきたいと考えています。こ

令和八年一月吉日

大崎町長
中野伸一

続々し改善をおこないながら町民の皆様が、『この町で安心して、健康で尊厳をもつて暮らし続けられること』と一緒に全力で取り組んでまいりますので、引き続き皆様の理解とご協力をお願い申しあげます。

